

企画指導担当

水産研究部企画調整事業

堤憲太郎・田村勇司

事業の目的

農林水産研究指導センター水産研究部の企画調整機能を充実・強化するため、「企画調整」、「広報広聴」及び「研修」に係る業務を行った。

1. 企画調整事業

水産研究部の管理担当、企画指導担当、栽培資源チーム、養殖環境チーム及び浅海・内水面グループの浅海チーム、内水面チームの業務や予算等を調整し、組織の円滑な運営と調査・研究の効率的な推進を図る。

また、農林水産研究指導センター本部をはじめ、関連機関との連絡調整、情報交換等を行い、研究課題等を企画、立案する。

2. 広報広聴事業

各種のメディアを通じて、調査・研究結果を積極的に公表・伝達する広報活動と、漁業現場のニーズを的確に把握して業務に反映させるための広聴活動を行い、水産情報拠点としての機能の充実に努める。

3. 研修事業

国内外からの研修や視察に積極的に対応し、開かれた研究機関としての機能の強化を図る。

事業の方法

1. 企画調整事業

1) 大分県水産研究企画調整会議

漁業者ニーズに迅速、的確に対応し、効率的な調査・研究活動を推進することにより、本県水産業の振興発展を図るため、大分県水産研究企画調整会議設置要綱に基づき会議を運営した。また、センター本部が主催する農林水産研究指導センター企画調整会議（メンバー：企画指導担当総括及び浅海チームリーダー）及びセンター所属長会議（メンバー：部長、グループ長）に参加した。

2) 研究予算調整

限られた予算を有効に活用し、効率的な研究・開発を推進するため、水産研究部（上浦）と浅海・内水面グループの研究予算等の調整と運用を行った。

3) 大分県水産研究推進検討委員会（所内評価）

研究課題の推進に際し、必要な助言、評価及び検討を行うことにより、研究レベルの向上と効率化を図るため、設置要綱に基づき委員会を運営した。

4) 大分県農林水産研究アドバイザー会議

本県水産業の振興発展に有益な試験研究を進めるため、大分県農林水産部試験研究推進本部設置要綱並びに試験研究評価実施要領に基づき、学識経験者等のアドバイザー委員から構成される水産研究部アドバイザー会議を開催し、新規研究課題に関して専門分野の技術的アドバイスを受けた。

2. 広報広聴事業

1) 広報

A. 研究発表会等

水産研究部の研究者の資質向上、情報交換を目的として、大分県水産関係研究者連絡協議会研究発表会を開催した。さらに、一般消費者を対象に、豊かで安全・安心な食を提供するための研究機関の取り組みを紹介することを目的にセンター本部が開催した研究紹介で水産関係の試験研究の取り組みを発表した。

B. 刊行物等

a) 事業報告書

刊行物投稿規約に基づき、平成 29 年度事業について、水産研究部（上浦）と浅海・内水面グループ分をまとめた事業報告書を作成し、ホームページで公開した。

b) 広報紙 AQUA-NEWS

広く県内外の水産関係者等に研究成果等の情報を発信するため、広報紙 AQUA-NEWS を編集、発行した。

C. インターネットによる水産業情報の発信

水産研究部のホームページ（アドレス：<http://www.pref.oita.jp/soshiki/15090/>）において、水温情報、漁況海況予報、緊急赤潮情報等の各種情報の提供を行った。

2) 広聴

A. 水産研究・普及連絡会議

研究者と水産業普及指導員との連携を強化し、漁業現場の情報や要望を研究課題に反映させるため、水産研究・普及連絡会議を開催した。

B. 県漁協支店運営委員長・市町村水産担当課長会議

水産研究部に対する漁協や市町村の要望や意見を聴取して研究課題に反映させるとともに、水産研究部の最新研究情報を伝達するため、県漁協支店運営委員長・市町村水産担当課長会議を開催した。

3. 研修事業**1) 視察・研修受入**

開かれた研究機関として機能することを目的として、視察、見学者への説明や案内等を行った。

また、必要に応じ、部門ごとの研修、国外からの現地視察や実習等にも対応した。

事業の結果**1. 企画調整事業****1) 大分県水産研究企画調整会議**

今年度は会議を8回開催し、各部所の行事、予算及び研究課題等の連絡調整を行い、水産研究部としての方針を決定した。

2) 研究予算調整

本部策定の予算編成方針及び水産研究部が定めた予算編成方針に基づき、各担当・チームから要求があった試験研究及び施設整備等の予算を取りまとめた。

3) 大分県農林水産部水産研究アドバイザー会議

2018年12月26日、2019年1月22日に大分県農林水産部水産研究アドバイザー会議を開催し、重要研究課題について専門分野の技術的アドバイスや意見を受けた。(表1-1、表1-2)。

2. 広報広聴事業**1) 広報****A. 研究発表会等**

2019年1月24日、25日に大分県水産関係研究者連絡協議会研究発表会を開催し、水産研究部7課題、浅海・内水面グループ4課題の研究発表があった(表2)。

B. 刊行物等**a) 事業報告書**

水産研究部、浅海・内水面グループの平成29年度の事業報告を編集、作成し、ホームページで公開した。

b) 広報紙 AQUA-NEWS

本年度は、7月に第45号、1月に第46号を編集、発行し、県内外の関係機関に配布した。

C. インターネットによる水産業情報の発信

水産研究部のホームページにおいて、水温情報、漁況海況速報、予報並びに緊急赤潮情報等の各種情報の提供を行った。

2) 広聴**A. 水産研究・普及連絡会議**

2018年5月18日(水産研究部)、6月1日(浅海・内水面グループ)に連絡会議を開催した。

普及指導員から要望が出された事項については、各チーム・担当において対応した。

B. 県漁協支店運営委員長・市町村水産担当課長会議

2018年6月28日に佐伯市沿岸地域、7月2日に北海部沿岸地域、7月2日に東国東・別府湾沿岸地域、7月5日に豊前海沿岸地域を対象としてそれぞれ会議を開催した。

表3に会議で報告した研究情報を示す。

3. 研修事業**1) 視察・研修受入**

小学生の団体見学を中心に、多くの視察、見学及び現地実習等に対応した。

表4に視察受入実績を示す。

また、赤潮、魚病、水産加工等各担当ごとのテーマ別研修も実施した。

表 1-1 大分県農林水産研究（水産研究部）アドバイザー会議委員名簿

| 所 属 | 役 職 | 氏 名 | 備 考 |
|-------------------------------|-------|--------|-------|
| (国研) 西海区水産研究所 マグロ増養殖研究センター | 主任研究員 | 森岡 泰三 | 学識経験者 |
| (国研) 水産大学校生物生産学科 生物環境学講座 | 教 授 | 村瀬 昇 | 学識経験者 |
| 長崎大学大学院 水産・環境科学総合研究科環境科学領域 | 教 授 | 井口 恵一朗 | 学識経験者 |

表 1-2 大分県農林水産研究（水産研究部）アドバイザー会議に付託した研究課題

| 研究課題名 | 担当チーム | 研究期間 |
|-------------------------|--------|-----------|
| 人工種苗ロープの開発によるひじき養殖技術の確立 | 浅海チーム | H30～H32年度 |
| 主要河川におけるアユ資源の有効利用手法の開発 | 内水面チーム | H31～H33年度 |

表 2 大分県水産関係研究者連絡協議会研究発表会の発表課題

| 発表課題名 | 発表者 |
|--|---------------------|
| 潮間帯を利用したマガキ天然採苗技術の現地実証 | 浅海チーム 研究員 宇都宮のぞみ |
| アサリ人工種苗生産における低塩分飼育法の有効性の検証と 大型水槽への応用 | 浅海チーム 主任研究員 山田 英俊 |
| キジハタ種苗生産への挑戦 | 浅海チーム 主任研究員 白樫 真 |
| ブリ早期種苗生産と人工種苗の可能性 | 栽培資源チーム 研究員 山本 桂伊 |
| ヒラメおよびブリ養殖場からの主要病原体検出の試み | 養殖環境チーム 主幹研究員 木本 圭輔 |
| 緑色 LED 光の使用によるヒラメ養殖期間短縮の可能性 2 | 養殖環境チーム 主任研究員 都留久美子 |
| アユの不漁を防ぐ環境条件とは ー漁獲量と河川水温の関係ー | 内水面チーム 研究員 吉井 啓亮 |
| 養殖魚および <i>Karenia mikimotoi</i> に及ぼす 高濃度酸素供給の影響 | 養殖環境チーム 研究員 井口 大輝 |
| 次世代型多項目水質計を活用した <i>Karenia mikimotoi</i> 赤潮監視体制のスマート化への取組 | 養殖環境チーム 研究員 中里 礼大 |
| 豊後水道南部におけるサバ類の漁獲動向 | 栽培資源チーム 研究員 中尾 拓貴 |
| 豊後水道におけるクルマエビの小型化について | 栽培資源チーム 研究員 小谷 奈央 |

(注) 表は発表順である。連名発表は筆頭者のみ記載した。

表3 県漁協支店運営委員長・市町村水産担当課長会議等の開催実績と報告した研究情報

| 開催日（場所） | 対象地域 | 研究情報・報告者 |
|---------------------------|---------------|--|
| 2018年6月28日 （佐伯総合庁舎） | 佐伯市沿岸 | 「1966～2018年における 豊後水道表層水温の長期変動について」 栽培資源チーム 研究員 竹尻 浩平 |
| | | 「緑色LED光利用によるヒラメ養殖試験」 養殖環境チーム 主任研究員 都留久美子 |
| 2018年7月2日 （臼杵総合庁舎） | 北海部海域沿岸 | 「1966～2018年における 豊後水道表層水温の長期変動について」 栽培資源チーム 研究員 竹尻 浩平 |
| | | 「緑色LED光利用によるヒラメ養殖試験」 養殖環境チーム 主任研究員 都留久美子 |
| 2018年7月2日 （国東総合庁舎） | 東国東・別府 湾沿岸 | 「人工種苗ロープの開発によるヒジキ養殖技術の確立」 浅海チーム 研究員 菅沼 倫美 |
| | | 「H30 マコガレイの稚魚調査結果」 浅海チーム 研究員 濱田真悠子 |
| 2018年7月5日 （浅海・内水面グループ） | 豊前海沿岸 | 「人工種苗ロープの開発によるヒジキ養殖技術の確立」 浅海チーム 研究員 菅沼 倫美 |
| | | 「マナマコの種苗生産・放流技術開発について」 浅海チーム 研究員 宇都宮のぞみ |

表4 視察等受入実績

| 区 分 | 水産研究部 | | 浅海チーム | | 内水面チーム | |
|--------|-------|--------|-------|--------|--------|--------|
| | 件 数 | 人数 (人) | 件 数 | 人数 (人) | 件 数 | 人数 (人) |
| 視察・見学 | 5 | 75 | 0 | 0 | 12 | 32 |
| うち、国外※ | 1 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 |

※フィリピン

(注) 文書等により依頼があったもので、概数である。